

樹木

水生植物

鳥類



ムクノキ<アサ科>
落葉の高木。社寺林や河川周辺に多く、源兵衛川や清住緑地、松毛川では比較的大きく枝を張っている。葉の表面はザラザラしている。球形の果実は熟すと黒っぽくなり、ムクドリなど野鳥が好んで食う。

ハンノキ<カバノキ科>
落葉の高木。湿地や河川敷などに生育する。清住緑地ではまとまつたハンノキ林があり、貴重である。冬に花をつけ、雄花と雌花がある。

ミシマバイカモ<キンボウグ科>
三島市で発見されたことからこの名がある。イチョウバイカモの変種とされる。湧水に生育し、特徴的な浮葉をもつ。現在は移植により市内の各湧水河川にみられる。白い5花弁で中央部は鮮やかな黄色。

ホザキノフサモ<アリノトウグサ科>
湖沼、ため池、河川、水路などに生育する沈水植物。細い羽状葉をもつ。桜川と御殿川の分岐周辺、赤橋周辺、源兵衛川下流部、清住緑地などでみられる。

カワウ<ウ科>
ほぼ全身が真っ黒で大型の水辺の鳥。近年個体数が増加している。水に潜って魚類などを捕食する。

オオサギ<サギ科>
大型のサギ類で市内各河川や水田などさまざまな水域でみられる。顔から首にかけて薄い灰色で、目の後方から後頭部にかけて濃紺のまだらがあり、体全体は青みがかった灰色。



エノキ<アサ科>
落葉の高木。校庭や河川周辺など市内各所にみられ、一里塚の木も木種である。秋に朱色の小さな実をつけ、小型の鳥類の餌となる。またタマムシの食餌植物でもある。

ケヤキ<ニレ科>
落葉の高木。大木になり、時に40mにもなる。樹齢を重ねると幹は樹皮が不規則にはがれウロコ状になる。白滝公園にはまとまって生育している。

ヤナギモ<ヒルムシロ科>
河川や水路など流水域に生育する沈水植物。線形の細長い葉をもつ。桜川と御殿川の取り入れ口周辺ではまとまって生育しているほか、源兵衛川下流部にもみられる。

セキショウ<ショウブ科>
小河川の浅い水域に生育する。白滝公園では湧水部を中心に、源兵衛川では上流部を中心に見られる。通常は湿生から抽水で生育するが、湧水量が多い時には沈水状態でも生育する。

ダイサギ<サギ科>
全身が白い大型のサギ類。市内各河川や中郷温水池などさまざまな水辺でみられる。魚類や両生類、昆虫などを捕食する。

コサギ<サギ科>
全身が白い小型のサギ類。市内各河川や中郷温水池などさまざまな水辺でみられる。魚類や両生類、昆虫などを捕食する。



センダン<センダン科>
落葉の高木。オオチともよばれる。幹は黒褐色で縦に裂け目ができる。葉は羽状の複葉。初夏に淡紫色の花をつける。市内の河川周辺や校庭などに生育する。

タブノキ<クスノキ科>
常緑の高木。葉は厚く表面はつやがあり濃い緑色。照葉樹の代表的な種で、海岸近くに多いが、市内でもところどころにみられる。

カワヂシャ<オオバコ科>
レッドデータ 環境省:準絶滅危惧 河川、水路、ため池などの岸辺に生育する。市内各所の水辺に生育する葉の形が牛の額のようであることから、ウシノヒタイの別名がある。花期は夏の終わりから秋で、茎の先端に白とピンクの花をつける。

ミゾソバ<タデ科>
河川、水路、ため池などの岸辺に生育する。市内各所の水辺に生育する葉の形が牛の額のようであることから、ウシノヒタイの別名がある。花期は夏の終わりから秋で、茎の先端に白とピンクの花をつける。

マガモ<カモ科>
冬鳥として渡来する。オスは頭部が光沢のある緑色で、胸部は茶色、からだはほぼ灰色。メスは全体が褐色。楽寿園内や中郷温水池など止水域を中心にみられる。

カルガモ<カモ科>
留鳥として一年中みられる。オスメスともほぼ同色で、濃淡はあるがほぼ全身こげ茶色。顔から首、胸部にかけては白っぽく、頭頂と目の前後は黒褐色。嘴は黒く先端は黄色。市内の各河川や池沼などに最も普通。